

## 寅さん歩 その26

### 東京の主要道路の起点～終点

#### 墨堤通り－1



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」と歩いてきました。

今回は桜の時期を待っていた「墨堤通り」を歩きます。墨堤通りは墨田区吾妻橋の浅草通りと清澄通りの交差点を起点に、足立区千住桜木の尾竹橋通りの千住桜木町交差点に至る延長約7kmの道です。写真右上は墨堤通りの道路名標識（都道461号線）です。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時の写真もあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

#### 〔浅草通りと清澄通りの交差点〕 墨田区吾妻橋二丁目

最寄駅 都営地下鉄浅草線 本所吾妻橋駅



写真上左は墨堤通りの起点で墨堤通りは右へ進みます。「墨堤」とは隅田堤（墨田区隅田川左岸の堤）を云います。散策解説板には「江戸時代以前は牛御前と呼ばれる牛嶋神社に表されるように、放牧や農業（田畑）を営む地域でした。江戸時代に入り、三代将軍徳川家光の頃から盛んに鷹狩などが行われ、徐々に江戸市民の景勝地として認知されてきました。墨堤の桜の始まりは、四代将軍徳川家綱の頃の植桜とされていますが、実際は八代将軍徳川吉宗の頃の植桜を期に江戸の花見の名所として親しまれました」と記載。

## [墨田区役所] 墨田区吾妻橋一丁目



最寄駅 東京メトロ銀座線 浅草駅

左側に「墨田区役所」（写真左）があります。1990年（平成2年）竣工の地上19階、地下2階の墨田区の中核施設です。

寅さん歩 250 官公庁の食堂めぐりー12 墨田区役所をご覧ください。

## [枕橋・源森川水門] 墨田区向島一丁目

最寄駅 東京メトロ銀座線 浅草駅

現在の北十間川（旧名は源森川）にかかる「枕橋」（写真下左）を渡ります。左の隅田川側には「源森川水門」（写真下右）があります。北十間川は江戸時代初期に開削された運河で本所の北を流れ、川幅が十間の川です。枕橋は隣に架けられた「小梅橋」と対になると、夫婦が枕を並べた様子に似ていることから呼ばれた橋で名を変えて鬼平犯科帳にも登場するそうです。



## [隅田堤の桜・漕の碑] 墨田区向島一丁目

最寄駅 東京メトロ銀座線 浅草駅

隅田川の堤（写真下左）に上がり歩きます。右側に「漕」の文字の碑（写真下右）がありました。2016年（平成28年）9月に建てられた「隅田川ボート記念碑」です。碑には「夏目漱石も福沢諭吉もこの隅田川でボートを漕いだ。ボート競技の様子が滝廉太郎の“花”になった」と書かれ、脇には明治10年頃からの隅田川ボート年表の碑があります。1964年（昭和39年）東京オリンピックのボート会場は戸田に移り、現在の隅田川のボートレースは早慶レガッタだけ残っています。寅次郎の父も東京商科大学（現在の一橋大学の前身）エイトの選手、隅田川でボートを漕いだ一人です。思わぬ所で亡き父の青春を偲びました。



墨堤の早朝の桜を眺めながら進みます。右上は首都高速道路向島線が走ります。



## [長命寺桜もち・言問団子] 墨田区向島五丁目

最寄駅 東京スカイツリーライン とうきょうスカイツリー駅

墨堤から離れて下ると右に「長命寺桜もち」（写真下左）、左に「言問団子」（写真下右）のお店があります。早朝なので店は閉まっています。寅さん歩 51 健康ご利益めぐりー13 墨田区ー2 をご覧ください。



## 〔隅田公園少年野球場〕 墨田区向島五丁目

最寄駅 東京スカイツリーライン（伊勢崎線）曳舟駅

左側に野球場がありました。説明板には『この少年野球場は。昭和 24 年戦後の荒廃した時代に「少年に明日への希望」をスローガンとして、有志や子ども達の荒地整備による汗の結晶として誕生した日本で最初の少年野球場です。以来数多くの少年球児がこの球場から巣立っていったが、中でも日本の誇る世界のホームラン王 巨人軍 王貞治氏もこの球場から育った一人です』と記載。



## 〔白鬚神社〕 墨田区東向島三丁目

最寄駅 東京スカイツリーライン（伊勢崎線）東向島駅

白鬚神社上交差点の右側に「白鬚（しらひげ）神社」（写真下左）がありました。近江（滋賀県）最古の大社のご分霊を951年（天歴5年）にこの地に祀ったとのこと。隅田川七福神の寿老人が祀られています。道路を渡り、写真下右の社殿で家内安全・延命長寿をお願いしました。



今回はここまでとします。

## [バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。全行程約600里（約2400km）の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022年4月26日、江戸深川（現在の江東区深川）を出発、直江津・高田・能生を経て、2023年3月27日市振（新潟県糸魚川市市振）（江戸深川から1592km）に到着しました。

八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

今日は親知らず・子知らずなどの北国一の難所を越えて疲れたので、・・・寝たところが、一間おいた表の方の部屋で若い女二人の声、年取った男の声、女は伊勢詣の新潟の遊女で男はここまで送って来た。所定めぬ情けない境遇にまでこの世を落ちぶれはてて、夜ごとに変わるはかない契り、こんな毎日毎日を送る前世の業因はどんなに悪かったのだろう、などと語りあっているのを、うとうと聞きながら寝入ってしまった。翌朝旅立ちに際して、「先の道

筋もわからぬ道中の心細さ、あまりにも不安です。見え隠れになりお供して参りたい。・・ 法衣をお召めしのお身の上のお情けに、なにとぞ御仏の大慈大悲のお恵みをお分ち下され、仏縁を結ばせて下さいませ」と涙を流して頼むのだった。可哀そうに思い承諾した。

「一つ家に 遊女も寝たり 萩と月」(曾良)

(注釈：自分のような世俗を捨てた僧形の旅人と、ゆくりなくも北国辺土の一軒家の宿に、花やかにも罪深い哀れな遊女も泊まり合わせて寝ている。おりから庭には萩がなまめかしく咲きこぼれ、その上を澄んだ月の光が照らしているが、何となく遊女と自分とのめぐり合いを思わせているかのようだ)

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

平野 寅次郎 拝